

令和8年3月13日

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	都立葛飾ろう学校
所在地	葛飾区西亀有 2-58-1

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ごっこ遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、学校の特色など)

本校は聴覚障害がある幼児が在籍する、ろう学校幼稚部である。幼児は、自分なりに遊具や道具を工夫して使用し、見立て遊びをすることに興味・関心をもっている。特に、ままごとやお店屋さんごっこなどを通して、好きな役を自分なりにやりながら、他の幼児との関わりを楽しむ姿も見られる。

本校では、聴覚障害のある異年齢同士の幼児が集まる自由遊びの場において、様々な活動に好奇心を広げ、ごっこ遊びを楽しむ姿を通して探究心を育みたいと考え、本テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

9月～	幼児のごっこ遊びの現状についての保育方法の話し合い・環境整備 自由遊び内でのごっこ遊び 日々の活動後の保育方法の話し合い・環境整備
11月・1月	幼児教育に関する大学関係者からの助言
2月	まとめ

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・画用紙等の紙材、文具（マジック、絵の具、ガムテープ、セロテープ等）
- ・大道具（ベンチ、段ボール、ビニールシート・敷物・椅子・机・）
- ・小道具（型抜き、皿、食器、鍋・フライパンなどの調理器具、スコップ・バケツ等）

#### 4. 探究活動の実績

##### <活動の内容>

幼児は、遊びの中で自分で道具や場を準備してごっこ遊びを楽しんだ。その中で、子供の考えや子供同士の関わりや気付きを大切に、保育者は見守りながら、遊びがより広がるように支援をした。

ごっこ遊びとして、園庭や室内において、「おうちごっこ」や「ままごと」、「お店屋さんごっこ」、「お医者さんごっこ」や「美容院ごっこ」、「やきいもごっこ」や「オニ退治ごっこ」など、その日その日で子供たちは自分で考え、友達を誘って遊んだ。

その中でも、「おうちごっこ」が特に盛り上がり、幼児は住みたい家をみんなで一緒に作った。幼児同士で想像をふくらませながら、決めた役になり切って赤ちゃんを育てたり、会社に行ったりするなどして楽しんだ。

##### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と先生との関わり>

ごっこ遊びを楽しむ中で、子供たちは自分で場を整え、道具や必要なものを準備するようになった。ダンボールやビールケース、椅子や机などを相談しながら設置し、「ここを部屋にしよう」「ここはトイレがいいかな」など、やり取りをしながら遊んだ。

砂場で砂や枯れ葉、石などを使って、食べ物を作ったり、道具を携帯電話やリモコンに見立てたりした。園庭にないものは、自分たちで作ることができる環境を準備していたので、遊びの中で気付いて作ったり、描いたりして自分たちのイメージをより具体化して遊ぶことができた。

年長の幼児たちが中心となり、年中・年少の幼児たちもその様子を真似ながら学年を越えてごっこ遊びを楽しんだ。

保育者が子供たちの“仲間”となり、遊び広げたり、深めたりできるよう、人的・物的環境を整えた。

##### <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た先生の気づき)

ごっこ遊びは、おうちごっこやままごとなどの身近なものから、お店屋さんごっこや劇遊びなどの自由なイメージに基づくものまで多岐に渡り、子供たちは毎日の気持ちで遊びを選択し、深めようとするのが改めて分かった。特に、ごっこ遊びの面白さは、役や物、行為、空間、人・関わりの要素が関係し合っている。この中で子供たちは自分にできることを工夫したり、他の子供たちとのやり取りを深めたりしていく。保育者として、子供の思いや行動を見守り、時に考えを出し合いながら一緒に楽しく遊ぶことで、子供の成長を促していくことができると感じた。

今後もごっこ遊びを通じて、子供たちが様々な道具や材料を工夫しながら、自分の思いを実現し、他の友達とのやり取りを深められるようにしていく。また、ここで得た知識を活用しながら様々な保育活動に充実を図っていく。

以上